



東側 外観

両側に配置されるコアを中心にスラブが張り出しています。そのスラブを支える構造体は、構想をイメージしています。



北側 外観

北側道路からのアクセスロードを川の様に見せることで、構想のイメージを高めています。



内観 構造デザイン

連続する集成材梁と鉄骨キール。

平成15年度 第13回建築作品 優秀賞 高田建築設計事務所(長岡市)
一橋 設計一

Concept (コンセプト)

構の設計を専門にしておられる、設計事務所を設計する依頼を頂いた。構造デザインのプロであり、エネルギーに満ち溢れた所員の「パワー」は、世界に発信されています。

この強力な「パワー」を含む建物は、デザインモチーフを単に模倣するだけでなく、広がるエネルギーに追随する仕様と、構造デザインのプロが毎日仕事をされる空間を支える力の流れを持つことが必要とされました。

連続DNAをプランに持った地味可能なユニット計画は、増築して行く方法です。基本プランに追随する為のエリアが用意されています。構の建物は「繋ぐ」が重要なキーワードになりました。

構造は、それぞれの素材が持つ個性を生かしたハイブリッド構造デザイン。シンプルで明快ながら、動きが美しいデザイン性を持たせるために、R、C、鉄、木の三つの材料が組み合わされて構成されています。

この建物が、共に世界に、地元へと繋がる架け橋になってくれることを願います。



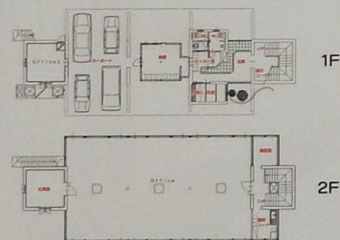
コンセプトイメージ

二つの離れたポイントを繋ぐ「このコンセプトを新しい事務所」に当てはめてみました。事務所の両端を対称する山並みに設定します。峡谷の両岸に見立てられた4m幅のコンクリートコアから橋のように2層のオフィス空間が架かるのです。

構造の仕組みは両端のコンクリートコアで支える。両端の応力に対抗するように作られています。空中に浮いたオフィス部分は鉄骨のキール（骨格）で、しっかりと両側のコンクリート部分と繋ぎ合っているのです。キールにかけられた木製の梁は、正におぼろ骨の形をしており、

外観・内観全てにおいて力の流れをそのまま表現しているデザインは建築主の現在のエネルギーと、グローバル化する将来への思い、理念をそのまま形に表すためにデザインされました。実際には、1階はピロチー空間でありカーポートとして使われています。

敷地北側より、この新しいオフィスを見てみると、丁度川面に浮かぶ橋があらわれます。



繋ぐ Part1

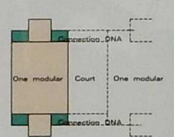


カーポートから橋を見る

この計画は「繋ぐ」がコンセプトにあるわけですが、それはプランの段階でも取り込まれています。広い敷地の中で建物を増築する時に、付け足すのではなくすべて「繋ぐ」ことにより、単体の構造だけでなくそれぞれの建物が中空の真下により繋がっていきます。

その為、プランはワンユニットとして完成する形を想定しており、各種の中に連続キールとしてDNAを埋め込むことで、自由に増築を繰り返して行く能力を持つことになりました。

ユニットの両端の岸を繋ぎ、橋の持つ機能である、物を運ぶ、人を運ぶ、情報を運ぶとして、都市と都市が繋がって行く重要な役割を果たしていきます。



鉄骨のキール

橋のアーチをモチーフにデザイン性を加えています。

木造の梁

各側に見えるのはトランプライトの下地材。



玄関ホール内観

ホールはガラスで包み込んで高さを高める。シンプルな外観に隠された熱いスペース。



階段室天井からのビンスポット

コアに掛けられた階段室で、ゲストは足と目線の流れを受けることになる。シャープな光がPCに当たって空間をさらに引き締めます。



社長室

天井の照明は自然の光のイメージ。奥の柱は、DNAは、何處にもなくとも隠れ家があるように見えます。

繋ぐ Part2



この社屋から発信される情報・技術は世界へと繋がっている。そしてパソコン教室等を通して、地域を繋ぎ合わせるネットワークにも繋がっています。

情報化された世界は全世界に広がっていく。一つの窓口なのかもしれない。



繋ぐ Part3



この建物の架け橋のイメージ